

今月の ひとこと

「ワーク・バランス」という言葉をよく聞きます。私はなにかすごく違和感を感じます。この言葉は「ワーク」と対するもので、そのバランスが重要だというイメージだからです。ここでいう「ワーク」は文字通り「仕事」「ライフ」は普通、家庭などの「個人生活」を意味します。そのバランスをうまくとるという点に関しては私はいい。ただ、「ライフ」という言葉を「ワーク」と対するものとする認識がおかしいのではないかと思います。個人生活も同じように大切に両方とも「ライフ」の一部です。そして、その両者のバランスが重要なので「ワーク・バランス」という言葉には仕事はつらく苦しいもので、個人生活は楽しいものであるという前提があります。正しくは「ワーク・ホーム・バランス」というべきなのではないでしょうか。

+++++
クラブ・インベストラライフの仲間が活発な議論をしています。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください(7月12日現在で参加者数は3520名です)

[記事をすべてダウンロードする](#)

誌上ライブ：ミッション・フォー・リターンズ講演会

講演： 大江 英樹氏、馬淵 治好氏、竹川 美奈子氏、島田、知保氏、岡本 和久 レポーター： 佐藤 安彦



2017年6月11日にミッション・フォー（大江 英樹氏、馬淵 治好氏、竹川 美奈子氏、岡本 和久）が東京に戻ってきました。今回は質疑応答を中心に、みなさまの投資の疑問にお答えしました。また、月刊投資信託事情の編集長で「投資の鉄人」の出版に際し我々を強力にサポートしてくださった島田知保さんにも司会役をお願いしました。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 退職後の資産準備をどう考えるか

講演： 野尻 哲史氏 レポーター： 赤堀 薫里



お金の流れを「額」から「率」へ変えることで、30代から70代80代と長期スパンで流れをつかむことが出来ます。セミナーでは、「老後ゆとりのある生活を送るには月35万円です。」と言い、そこからいきなり「運用しましょう」と飛んでしまいます。実はそれよりも大事なことは、自分のなかで「35万円が自分にとって正しいかどうか」を考えること。その為の一步が、年収と率を使うアイデアです。（野尻さん）

[読んでみる](#)

新連載 極限の貧乏から今日まで 第一話「谷底」編

土井 広文氏

秋田在住の土井広文さん。今年6月に土井さんがお客様を集めてくださり何度目かの秋田での講演が実現しました。驚いたのは多くの方が土井さんの話を聞き、この半年ぐらいのうちに実際に投資を始めたということです。きっと土井さんの話には何か人に訴えるものがあるのだろうと思い詳しくお話を聞

クラブ・インベストラライフとは？

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストラライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売することも一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告のご遠慮ください

I-Oウェルス・アドバイザーズのメール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

Facebook上のグループ、クラブインベストラライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

Facebookへはこちらをクリック

Twitter上のグループ
クラブインベストラライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

[@c_investlifeさんをフォロー](#)



きました。なるほど、納得です。机上の空論ではない現実のどん底脱出のストーリー、これから三回連載で自ら語っていただきます。(岡本)

[読んでみる](#)

バックナンバー

一覧

- [2017年07月10日発行 Vol.175](#)
- [2017年06月09日発行 Vol.174](#)
- [2017年05月15日発行 Vol.173](#)
- [2017年04月17日発行 Vol.172](#)
- [2017年03月15日発行 Vol.171](#)
- [2017年02月15日発行 Vol.170](#)
- [2017年01月16日発行 Vol.169](#)

中国がわかるシリーズ41 モンゴル軍の第二次大西征 その2

ライフネット生命保険株式会社 創業者 出口 治明氏

1252年、クビライが雲南に出兵、1253年には、フレグが西方に出兵しました。クビライは、同年、[南]宋攻略の第1歩として、東ユーラシアの臍に位置する雲南の大理国を滅ぼしました。フレグは、イランに入り、アラムートなどの山城群を攻略し、ニザール派(シーア派の分派)を屈服させました。

[読んでみる](#)



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

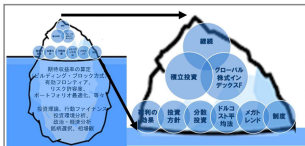
トリビア研究家 末崎 孝幸氏

★やじ馬 ★庄巻(の由来) ★音位転換について ★世界三大美人 ★目から鱗(が落ちる)(聖書に由来する言葉)

[読んでみる](#)

I-OWA マンスリー・セミナー 講演より 投資教育者の見た投資教育のあり方

講演: 岡本 和久 レポーター: 赤堀 薫里



どうしてスマホがこんなに普及したのか? それは、みんながスマホの構造を理解したからではなくて、使い方がやさしくなったからです。これは投資にも共通して言えることで、投資を普及するためには、いかに使い方をやさしくするかが鍵だということです。

[読んでみる](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供: イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

7月のパフォーマンス(成長型)は二資産型が0.64%に対し、四資産型は0.35%に留まり大きな差がつかしました。

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供: イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

今月は国内外の主要ETFの比較をしていただきました。

[読んでみる](#)

I-OWAたより

岡本和久のI-OWA日記

◆広尾・恵比寿のラーメン探訪 九十九ラーメン ◆長野で「大人と子供のためのハッピー・マネー教室」 ◆深海と生物」展へ ◆タイ〜仏の国の輝き展@平成館へ ◆ららら♪クラシックにアンドレス・セゴビア登場! ◆日本FP協会富山支部の継続教育研修の講師で富山へ ◆資産運用こぼれ話 「投資家ファースト」という言葉の重さ ◆投資ルネッサンス2007、あれから10年 ◆第142回、I-OWAマンスリー・セミナーが7月16日に開催されました

セミナー案内

8月20日(日) 13:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (143回) 夏休み恒例「大人と子供のためのハッピー・マネー教室」(満席となり申し込み締め切りました) 会場: ヒューリックカンファレンス 3階 Room2 東京都台東区浅草橋1-22-16 JR・都営浅草線 浅草橋駅前 <http://www.hulic-hall.com/access/> ① 13:30~14:25 「開会あいさつ、ハッピー・マネー教室&ハッピー・マネー・ソングの練習」 ② 14:40~15:30 「いまなぜマネー・投資教育なのか」(岡本 和久) ③ の時間帯にお子さんにはワークショップがあります ④ 15:45~16:30 発表会、閉会のごあいさつ マンスリー・セミナー会員様(教室・ネット) およびご同行のお子様: 無料、大人: 1000円、お子様(高校生以下): 500円

9月17日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (144回) 会場: 東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> 12:30~13:30 「CFA協会年次総会報告 ~シラー・シーゲル・ディバート~」(岡本 和久)、13:40~14:40: 「元気はつらつインド経済」(コンサルティング・アジア 勝池 和夫氏)、14:45~15:30: フリー・ディスカッション、15:30~16:30: 懇談会、スポット受講料: 教室での受講は10000円+税 予約必須、動画での受講は5000円+税

9月30日(土) 12:30~17:00 日経Wアカデミー お金の学校 投資経験者編 「長期に成長する企業の見分け方」(岡本 和久) 「日本経済新聞を活用した情報収集と個別銘柄の見つけ方」(和島 秀樹氏) 「ここに注目! これからの株式相場」(鈴木 亮氏) 会場: SPACE NIO (東京都千代田区大手町1-3-7日本経済新聞社東京本社ビル2階) 参加費: 15000円。お申込みはインターネットで (<http://www.nikkei4649.com/seminar/>) 申込み締切: 9/22

10月15日(日) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (145回) 会場: 東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> 12:30~13:30 「CFA協会年次総会報告 ~ボーグルが語る金融と金融市場のこれから~」(岡本 和久)、13:40~14:40: 「人生にお金はいくら必要か(仮)」(経済評論家、山崎 元氏、ファイナンシャル・プランナー、岩城 みずほ氏)、14:45~15:30: フリー・ディスカッション、15:30~16:30: 懇談会、スポット受講料: 教室での受講は10000円+税 予約必須、動画での受講は5000円+税

11月19日(土) 12:30~16:30 東京 I-OWAマンスリー・セミナー (146回) 会場: 東京都渋谷区広尾1-8-6-7F(当社オフィス) <http://www.i-owa.com/company/access.html> 12:30~13:30 「長期に成長する企業の見分け方」(岡本 和久)、13:40~14:40: 「世界のビジネスマンはなぜ、瞑想するのか(仮)」(ガンガー総合研究所 代表取締役 藤井 義彦氏)、14:45~15:30: フリー・ディスカッション、15:30~16:30: 懇談会、スポット受講料: 教室での受講は10000円+税 予約必須、動画での受講は5000円+税



誌上ライブ:ミッション・フォー・リターンズ講演会

2017年6月11日開催

講演: 大江 英樹氏、馬淵 治好氏
島田、知保氏、竹川 美奈子氏、岡本 和久
レポーター: 佐藤 安彦

2017年6月11日にミッション・フォー(大江英樹氏、馬淵 治好氏、竹川 美奈子氏、岡本 和久)が東京に戻ってきました。今回は質疑応答を中心にし、みなさまの投資の疑問にお答えしました。また、月刊投資信託事情の編集長で「投資の鉄人」の出版に際し、我々を強力にサポートしてくださった島田知保さんにも司会役をお願いしました。

<投資の疑問に答える>

(質問1)

質問者:いろいろな地域に分散するのがよいとのお話があり、そうしたいと思っています。そうした場合、日本国内の情報であれば入ってきますが、海外の情報を集めようとするのが大変です。なので、MSCI-KOKUSAI インデックスファンドというのは、選択肢のひとつになると思います。だけど、もう少し絞りたい、でもそんなには頑張れない、そんな状態ですが、小さなステップとするためのアドバイスをお願いします。

(質問2)

質問者:企業の価値が上がっていくに従って、その株を買っていた自分の資産も上がるのがよいというお話がありました。でも、価値が上がりそうな企業を自分で見つけるのは大変です。アクティブファンドのマネージャーは、年間数百社を回っていると聞きますが、それでも当たりはずれがあるという状況で、一個人として当然そんなにはできない。そうした中で、私たちは企業のこういったところを見ればよいのか、アドバイスをお願いします。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

(質問3)

質問者：メディアにはいろいろな事が書かれています。公開情報であれば、もう少しバイアスが掛かっていない情報が取れるのかなという気もするのですが、日々忙しい中で、どのデータを見ればよいのか、アドバイスをお願いします。

島田： 大変、良い質問を三ついただきました。それぞれ関連していると思いますので三つまとめて総括的なお答えをお願いできますでしょうか。では、馬淵さん、お願いします。

馬淵： インデックスファンドが核になると思います。おっしゃる通り、全部の国の全部の企業の事なんて分かりませんよね。例えば、イスラエルや南アフリカが、どうなるかなんて、分かりませんね。膨大な作業をすればデータを取れなくもないんでしょうけど、投資というのは、やはりある程度は頭でわかるだけでなく、腹に落ちていないと不安になるんだと思います。です



から、トヨタに投資をして不安にならないのは、トヨタがどういう会社か分かっているからなんです。完全によく分かっている会社であれば、何か悪い事があっても、世界的に自動車の売れ行きが落ちているからだとか、円高になって海外収益が落ちているからだとか分かるんですね。だから、例えトヨタの株に投資して損をしたとしても、その理由をよく知っているのだから、円安になるまで待てようとか、つまり、もう売らなくてはならないのか、まだ持っていてよいのかの判断ができるんです。

でも、イスラエルの会社についてレポートを手に入れて読んでも、頭では理解したとしても、腹に落ちないのではないかと思います。そうだとすると、実際に何か起きた場合に、それが一時的な事か、もうダメなのか判断ができないのだと思います。ですから、知らないものはやらない方がよいということになるんです。

それでも、やっぱりインデックスファンド以外にも自分としてある程度、個別株やアクティブファンドを持ってみたいという時には、基本はアメリカということに



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

なるでしょう。日本ではアメリカの情報が入りやすいし、アメリカの企業は世界的に活躍している企業が多いので、自分である程度納得できる判断ができるんだと思います。「That's feeling」と言いますが、頭だけでなく、心でもわかるようになるための情報量としてはアメリカ企業になると思います。

それ以外でも、例えばヨーロッパの有名な会社があれば、それらを調べてもよいと思います。外国株を取り扱っている証券会社に口座を持っていれば、そこから個別にレポートを取ることができる場合もあります。いずれにしても先進国から始めるのがよいと思います。

次に価値ある企業かどうかの判断ですが、これは難しいですね。何かひとつを見て、スパッと解決ということはないので、これも内容がわかる企業を買うということになるんだと思います。

ファンドマネージャーであれば取材することはできます。でも、本書の中でも書きましたが、個人で取材ができないと言われるとそんな事はないと思います。ひとつは、企業側も株主を増やしたいと思っているので、個人向けの会社説明会やIRミーティングを開いています。これは証券会社が主催するものもありますし、東京証券取引所や日本アナリスト協会が主催するものもあります。それぞれのサイトをご覧くださいと開催情報が載っていて、中には無料のものもあります。こういう所に参加して話を聞くのもいいと思います。

そのポイントというのは、企業が出す数字を見るだけではなく、その企業の人がどういう人なのかを見るのが大事だと思います。僕もIRミーティングにゲストとして呼ばれることがありますが、本当にこの会社やる気があるのか、と思う企業が結構あるんです。例えば、IRを担当する部署にいて部長に言われたから説明に来ました。という雰囲気の人とか、一般投資家からの質問に答えられないとか、ひどい会社があるんです。そういう会社は大体、全員とは言わないけれど大多数がダメですね(笑)。やっぱり社風というのはあって、会社の雰囲気は滲み出るんですね。そういう会社について、アナリストが「あの会社はすごく良いです」といくら言っても、前面に出てきて話す代表がダメだとその会社はダメです。逆に役員が出てきて熱意を持って「うちの会社はこういう事をしたい会社なんです」と表面的ではないキチンとした方針を語るとか、「ユーザーや従業員、株主に、こういった形で報いようとしているのです」というような話をして、その理想や理念の筋が通っている会社が時々あります。そういう会社はとても良いと思います。やはり数字をどうこう言うよりも、会社説明会で感じる事、つまりその会社の考えに共感できるかどうか、信じられるかどうか、投資においてもあると思うんです。この社長のやっている事に



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

共感して株が下がっても仕方がないと思える会社を選んでいくということはありませんね。

それと日常でも、あっちの外食チェーンはお客が並んでいるけど、こっちはダメだとか、こっちのスーパーはお客が多いけど、あっちは少ないとか、そういった地に足が着いた情報も大事なので、気にして見ていただきたいと思います。

それから、メディアについてですが、やはりメディアから出る情報は歪んでしまいますね。テレビだったら視聴率、雑誌は売れないといけないので、タイトルはどうしても派手になりますよね。それに中身も歪むことが多いと思います。メディアを参考にせずに投資判断するのは無理なんですけど、ある程度、歪んでいると思って拾わざるを得ないんですね。では、どうすればよいかという話ですが、投資情報の見通しを語る専門家については、すぐにちゃんとした人かどうかを見分けるのは難しいと思います。言っている事がメチャクチャという人以外は、長い間付き合っていると段々と見えてくる事があると思います。オンラインの情報でも、証券会社のレポートでも、テレビでもよいのですが、この人の話なら聞いてみようかなという人を数人ピックアップして、暫くの間追いかけてみてください。そうすると話がコロコロと変わる人がいます。環境が変わった場合はわかりますが、そうではないのに毎週や毎月、言っている事を変えている人が本当にいます。これは暫く追いかけないと分からないので、ある程度の期間追いかけてみて、信頼できる人を探すことも、時間は掛かりますが大事なんだと思います。

竹川： 海外の株式投信についてですが、日本国内で運用している約 6,000 本の投資信託のうち、国内株式に投資する投資信託に関しては、インデックスファンドよりも成績や良いものもそれなりに存在するんですが、海外株式に投資する投資信託にはそういうものがあまりないんですね。私と島田さんが選定している「一億人の投信大賞」というサイトで、資産形成向けのファンドをスクリーニングして公開していますが、海外株式、特に新興国株式のアクティブファンドは、ほとんど残りま





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

せん。S&Pでは世界各国のインデックスファンドのパフォーマンスを下回っているファンドの比率を出していますが、それで見ても

海外株式のアクティブファンドは、かなり数字が低いですね。

投資信託に関しては、金融庁も顧客本位の業務運用をするようにと言うようになってきて、投資信託の運用会社も変わってきている面はあります。各運用会社のホームページを見ていただくと、以前に比べて、経営者が顔写真を出して挨拶をしていたり、どういう運用をしようとしているかを言うようになってきたりしています。ただ、かなり抽象的な話をしている会社と、踏み込んだ話をしている会社がありますし、ファンドマネージャーが運用報告をしている所と、していない所があるなど、結構、差が出てきています。ですので、購入する前に、その運用会社がどういう考えを持った会社なのか、どういう運用を得意としているかを含めて確認するとよいのではないのでしょうか。

岡本： 海外と日本のこう言った対応の差の源泉はなんだろうと考えた時に、やっぱりそれはファンドマネージャーの質に影響されていると思いますね。「投資の鉄人」の私の章でも何人か紹介していますが、海外のファンドマネージャーとの付き合いで感じることは、レベルの違いですね。まず本当に仕事に対するコミットメントが凄いです。それから職業人としてのプライドだとか、それらに裏付けられた調査の仕方だったりするわけです。本当に凄い人達の集合体である運用会社というものが、それで出来上がっているの、日本のような感覚とはちょっと違うんですね。もちろん、日本にも良いパフォーマンスを出しているファンドや会社はありますが、あまりに実績期間が短く、良いパフォーマンスが本当にスキル(技術)によるものか、単なるラック(運)によるものなのか、なかなか判断がつかないのです。最低でも10年位続いていないと、企業の体質として良い成果を生み出すのかどうかの判断はできないと思いますね。

大江： アクティブかパッシブかと言うと、どちらが良い悪いという話になりますが、私はそれはあまり意味のない議論だと思うのですが、ただ、身も蓋もない話をすると、アクティブファンドって、命の次に大切なお金を手数料を支払って人に任せて、損しても自分自身が責任を追わなくてはならないというものですよね。自分で株のことを勉強し、理解した上で、あるファンドの哲学や運用体制に対して信頼できるから信じようということであれば投資信託を買うのは構わないと思いますが、株が難しいから投資信託でも買っておこうという考えは好



長期投資仲間通信「インベストライフ」

きではありません。まず、投資家として、株のことを勉強するべきであって、その上で投資信託を買うのがよいと思います。

少し話は変わりますが、企業価値を見るときに、数値の面で見るとなると ROE だとか ROI がどうかあるのですが、最終的にはその企業の儲かる仕組みを理解することが大事だと思っています。

例えば、アマゾンというのはロングテール戦略と言いますが、アメリカのように書籍の再販価格維持制度というものが無い場合において、書店では 10 万部売れる本を 100 冊置くのに対して、アマゾンでは 1,000 部しか売れない本を 1 万冊置くという発想でやっている訳です。だからリアル店舗ではなく巨大な倉庫を持って品揃えを良くすることで、年に 1 冊しか売れない本でも用意をすることでビジネスモデルを作ってきたのです。それでこれは他には真似できないから、その収益の源泉があるのです。

また、クックパッドという会社は料理のレシピを紹介していますが、システム会社ですよ。だって、投稿するのは一般の人であって、別に専門家にお金を払ってレシピを考えて貰ったわけではないので、単なるシステム会社なんです。だけど、あの仕組みで儲かっているんだから、その仕組みを考えてみるのが重要な事なんです。

日曜日の朝に TBS 系列でやっている「がちりマンデー」というテレビ番組がありますが、あの番組でやって

いるような視点で、企業の商売の仕組みを考えて、どんな所で差別化をして儲けを出しているのかを見る。そしてその時には自分の関心のある業種でないと、なかなか調べる気にはなれないでしょうから、興味のある業種でやることだと思います。

それと、ファンドマネージャーがいろいろな企業の経営者にインタビューをしていますが、経営者は格好の良いことしか言いませんからね。それよりも何を見るかというと、現場のサービスなんですよ。例えば、ヤマト運輸の人と佐川急便の人はどう違うのか、こういった視点はとても大事なんだと思います。





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

竹川： 自分で会社の雰囲気を見てみるというのは大事だと思います。興味がある会社をリスト化しておいて、その後に業績やいろいろな所を見るとよいと思います。一番よくないのは、最初に数字でスクリーニングしてしまうことです。そうしてしまうと数値だけは良かったのに、その数値が下がったときに理由が分からなくなって不安になると思います。ですから、数字以外の部分も見、納得して買えれば良いのだと思います。

島田： 竹川さんがおっしゃったように、外国株式で運用しているファンドのパフォーマンスは良くないのですが、岡本さんがおっしゃるように、外国のファンドマネージャーは非常に優秀なんですね。ではどうして、日本で販売される外国のファンドのパフォーマンスが悪いのか。それは輸入した途端にコストが掛かるからなんですね。コストが重なって非常に高くなってしまふ。アクティブファンドは、コストによって負けてしまうというのは非常に多いと思います。実は、コストを考えないと、インデックスファンドに対する勝率って大体半々なんですね。これは普通の事ですよ、勝つときも負けるときもあるので。だけど、コストを乗せてしまうとほとんどが負けることになるのが現状なので、コストが安くなれば良いアクティブファンドなんですけど、まだそこまで時代が来ていないという感じだと思います。



竹川： 海外の運用会社でよい成績をあげているファンドというのはあります。日本に入ってくるとコストが高くなってダメになってしまうのは、外資系の運用会社の場合、日本では販売会社の力が強くて売らせてもらえないので、コストを高くて売ってもらうという背景もあつたりもします。また、販売会社が売るときと売らないときの差が大きく、ファンドの資金の流出入が安定しないために、日本では上手くいかないファンドもありますね。これは構造的にもう少し変わらないといけませんね。

馬淵： ファンドって、投資家が育てるという部分もあるんだと思います。ファンドマネージャーが絶対にコントロールできない事があって、それは、設定で入ってくるお金と解約で出ていくお金なんですね。何かの出来事で株価がドンと下が



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ったとして、そのタイミングでファンドマネージャーがあれもこれも買いたい株があったときに、投資家が怖いから解約しますと言って解約をされてしまうと、現金化するために保有している株を売らなくてはならなくなるんですね。逆にお金が入ってくるのは良いんですけど、ファンドとしてキャッシュで置いておきましたという訳にはいかないの、買うタイミングではない時に株を買うということにもなるんですね。ですから、投資家が長く持ってくれていることで、優秀なファンドマネージャーが思う存分仕事ができるということになるのだと思います。だけど、どうしても、皆さん生活をしている中で、お金が必要になったら売らざるを得ない。やっぱり自分の生活が大事ですから。結局、退職後のための資産形成をする長期投資家が長期によりファンドを育てるといことなんだと思います。

岡本： 皆さん地域分散もするのですが、この地域が良いとかあの地域は悪いとか、そんなに簡単にわかるものでもないんですね。企業価値も割安とか割高とか、これもなかなかわかるものではありませんね。公開データで中立なデータと言うけれど、あるようなないような、そんな感じでしょう。そう考えると、全世界の株式インデックスファンドを持つのが現実的で良いんじゃないかというのがオチなんですね。だけど、それ以上にもう少し進めたいというのであれば、ここで皆さんが言ったことが参考になると思いますので、ぜひいろいろと勉強してみてください。



<ミッション・フォー版「笑点」?>

島田： だいぶ、難しい話が続きましたのでこの辺で気分を変えて「謎解き」といきましょう。「投資の鉄人」で、それぞれの方が担当されたテーマと掛けて「何と解く？」と私が伺いますのでそれに答えてください。私が「その心は？」と聞きませんので、理由を言ってください。良い答えには・・・、座布団も賞品もありません（笑）。最初に、大江さん、「自分の中の罫」とかけてまして、なんと解きましょう。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

大江： 自分の中の罨とかけまして、「植木等のスーダラ節」と解きます。

島田： その心は？

大江： 「分かっちゃいるけどやめられない」。

一同： 笑い

島田： なるほど。

大江： はい。これは本当にそうなんですよ。こういう事をしたらマズイだろうということ、冷静な時ならそう思うんですね。例えば、株は下がったら買って高くなったら売るんだ。これは当たり前なことだと。だけど、いざ自分が株を買って、その株が上がってくるともっと買いたくなるんですよ。それで、下がってくると見るのも嫌になって売りたいなくなってしまう。こういった「わかっちゃいるけど止められない」というのは常にあると思いますね。

島田： 私は、投資というのは、孤独になってやるべきものだと思っています。だけど孤独になれなくて、常に自分の欲とスタイルにズレというか、そこが一番間違ってしまうところなんですよ。

大江： そうですね。この間、東京大学の脳科学の研究者である池谷裕二さんと、あるイベントのトークセッションで、こういう事を話したんですが、人間が間違ったバイアスで判断するのは避けようがないとおっしゃっていました。避けようがなかったらどうすれば良いんだということになるのですが、これはルールや仕組みを作って、行動習慣で防ぐしかないということなんですよ。ですから、積立投資がよいと言われるのは、こういうことなんだと思います。

島田： ありがとうございます。続いて竹川さん、「金融商品の罨」とかけまして、なんと解きましょうか。

竹川： 金融商品の罨とかけまして、「結婚」と解く。

島田： その心は？



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

竹川： その心は「できれば細く長く付き合える相手を選んでおけたら良いね。でも、間違えちゃったらやり直せばいいしね」ということです。

一同： 爆笑

島田： そうですね。恋人だったら格好良いとか、お金を沢山持っているとか、そういうのもありかも知れませんが、結婚となると肅々と堅実な生活をずっと続けていけて、一緒に楽しめるような人を選びたいですね。

竹川： そうですね。ボラティリティが高いというよりは、安定的で細く長く続くことが大事だと思います。つまり、結婚したらそれで終わりではないように、金融商品も買った後が大事なんですね。投資信託であれば、月次でレポートを見たり、せめて決算時の運用報告書を読んだり、運用報告会をやっている会社であれば参加して、最初、結婚しようと思った時と同じように運用してくれているのか、あの頃と変わっていないのか、怪しい動きがないかをチェックした方がよいと思います。それによって継続するかどうかを判断してほしいです。

島田： ありがとうございます。では岡本さん、「相場の罨」とかけて、なんと解きますか？

岡本： 相場の罨とかけて、竹川さんの結婚に続いて、「離婚」と解きます。

一同： 笑

島田： その心は？

岡本： その心は「売買(バイバイ)するとコストが掛かる」です。

一同： 爆笑

島田： 上手い！なるほど。売買と離婚の相手とのバイバイがかかっているんですね。

岡本： 無駄なバイバイはしない方がよいですね、コストが掛かりますから。結局、ずっと持ち続けられるような商品を長期で積み立てていけば良いんだと思います。これから結婚される皆さんは、グローバルなインデックス投信のような旦



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

那さんを選ばれるとよいと思います。ただ、結婚は分散投資はいけません（笑）。

島田： ありがとうございます。最後に馬淵さん、「情報の罨」とかけて、なんと解きましょう。

馬淵： 情報の罨とかけて、「昔の見世物小屋」と解く。

島田： その心は？

馬淵： 派手な見出しに気をつけましょう。

一同： ほおー。

馬淵： 記事には暴騰、暴落という言葉が躍るように、昔の見世物小屋って美空ひばりってポスターに書いてあったから行ってみたら全くの別人が出てきて、ポスターをよーく見たら「美空ひばい」だったなんてことがあったそうです。

一同： 笑い

馬淵： やっぱメディアは売れないと仕事にならないですからね。テレビやラジオや雑誌や新聞がなぜ派手な見出しを付けているのかというと、派手な見出しを付けるのはそ



の方が売れるからなんですね。でも、中身が無いとか間違っていることがあります。有名な人が発信をすると、一斉にその方向に行くような、集団心理で走ってしまうような部分があるので気をつけていただきたいですね。こういう物が出てきたら、中身を確認していただき、中身が無い場合はゴミ箱に捨てましょうということだと思います。

島田： みなさま、ありがとうございました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

<体験談を語る>

島田： 投資は始めたものの、長い投資人生、野を越え山越え続けていくにもコツがあると思います。特に投資を始めてからの大きな下落局面を迎えると、迷ったり心配になったりすることがありまよね。私自身もやはりこういった経験がありましたけれども、鉄人の皆さんは、自分の投資を止めようと思ったことはありますか？

鉄人一同： （全員なし）

島田： これは素晴らしいですね。皆さん、プロとして始めたからかも知れないですね。竹川さん、迷ったこともないですか？

竹川： 迷ったと言うか、動揺したことならば2回くらいあります。1つは2006年のライブドアショックの時ですね。当時、結構、個別株を持っていました。特に新興市場の株が好きで、全て暴落しました。その頃、銘柄数を増やしていたんですが、これに懲りて自分で納得できて、管理ができる範囲で持とうと、米国株などではインデックスファンドで積立をしていたので、こちらについて迷ったことはなかったのですが、プラスアルファで何かをしようとするとう失敗するケースが多かったと思います。もう1つは、マネー雑誌をやっていた時に、自分で投資してみないと分からないのでいろいろな投資法について試しました。それで、一番失敗したのが中国の個別株でした。業績や決算情報を見て買うわけですが、最初は大型株を持っていたのですが、調子に乗って小型株を買ったんです。そうしたら粉飾決算が発覚して、しかも今期だけでなく、前期も前々期もという話で、売買停止になりました。結局、2年間くらい売ることができませんでした。価格は半分以下になりました。購入したのは8万円くらいだったので、半分と言っても損は4万円くらいだったのですが、やはりショックでした。資産形成のベースの部分は、インデックスファンドに投資をして、プラスアルファの部分については「一定額までにする」などきちんとルールを決めておくことが大切ですね。

島田： ありがとうございます。馬淵さん、何かございますか？



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

馬淵： 僕は、投資そのものを止めようと思ったことはないですが、売却したことはあります。それと売買で失敗したこともあります。

まず、売却した件ですが、相場が落ちて怖くなって止めたということではないんですね。やっぱり生活をしている中で現金が必要になった時もありますよね。大江さんがおっしゃったように、資産というのは使うために形成しているので、使う時は使わなくてはならない。それから失敗をしたというのは、以前は証券会社に勤めていたので、会社の縛りがあるんですね。例えば、買った銘柄は3ヶ月間は売ってはいけないとか、信用取引をしてはいけないとか、そういったものです。

その後、会社を辞めたので、法をおかさない限り何をやってもよい立場になりました。そこで勉強だと思って、株を買ってその日のうちに売ってみるとか、FX取引をやってみるとか、いろんなことを3~4ヶ月くらいやったんですけど、これが見事に失敗するんですね。自分が買うと下がる、自分が売ると上がる。当時、半分本気で、自分の部屋に盗聴器が仕込まれていて、自分の売り買いは世界中の人にバレているに違いないなんて思っていました。それくらい逆に動いたんですよ。どうしてかなと考えると、群衆心理でみんなと一緒に売ったり買ったりしていたんですね。相談しているわけではないのに、みんなが売りだと思って一斉に売りに出すんですけど、その先で売るのがなくなると株価が上がる。買いたい時も同じです。みんなで相談している訳ではないんですが、群衆心理にはまってしまったんだと思います。これも大江さんがおっしゃったように、心理の罠にブレーキをかけるには、機械的に積み立てて投資をしていくとか何割下がったら絶対に売るとか、自分のその時の判断で決める事をするよりもずっと良いと思います。

岡本： 証券会社勤めで制約はありましたが、きちんと手続きをすれば株式投資は可能でした。もちろん、当時も最低6か月保有などという制約はありましたが、それは結果的にはよかったと思います。

私の最も成功した株は、私が初めて買った株です。1970年に証券会社に入社が決まった時にその会社の株を1,000株買いました。1株100円くらいだったと思います。それで、1987年に3,000円ぐらいになったところすべて売りました。社内の持株会もやっていたので保有株数は増えていました。とにかく、今、売れば、会社から借りている住宅ローンが全部返済できるのが分かったのです。それで全部売りました。資産形成よりもまず借金を減らすことが大切と思ったのです。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

失敗したのは、1980年代の初め、アメリカにいた時に、友達から、「面白い会社だよ」と言われ、新しくできたコンピューターの会社を紹介されました。株価は、1ドルか2ドルくらいだったと思います。株価も安かったので、「まあ、つぶれてもいいや」ぐらいの気持ちで買ったんですね。100株買って、その株のことは忘れていました。数年後、たまたま株価を見たら7~8ドルくらいになっていたので、儲かったと思って売りました。その株、実はアップルだったんですね。

一同： 爆笑

岡本： 今持っていたら、150ドルぐらいでしょうか。要するに会社の内容を見ずに買って、値段だけ見て儲かったからって売ってはいけないんだということですね。

あとは、2008年にリーマンショックがあった直後に、国内外の株式を増やしました。私は銘柄選択能力はあまりありません。とにかく、難しい事は分からなかったんですが、リーマンショックの前から、自分のポートフォリオで本来持っているべき株式部分の比率に対して、実際の保有がかなり下回っていたのです。それが、リーマンショックで更に乖離が大きくなったので、あるべき比率に戻すということをしました。つまり、「リバランス」という操作ですね。結果、それは絶好の買いタイミングでした。その後4年で株価も元に戻って、今はもっと高くなっているのが良かったなと思っています。相場の動きを見て判断していたらきっとあの時点で買うのは難しかったと思います。やはり、一定のプロセスというか、フォーミュラに従って運用する効果を実感しました。

もうひとつ例をお話しましょう。去年はいろいろとサプライズがありましたね。トランプさんとかブレグジットとかありましたけど、例えば、ブレグジットの時、私は売りも買いも何もませんでした。EUがダメになるかもしれない、イギリスも苦しくなるのでは、という事も考えました。でも、私は全世界のグローバルな株式インデックスファンドを持っていたので、なにもする必要がなかった。世界全体で見たら経済は今後も成長します。これからまだ、まだ世界的に需要は増えていくでしょう。イギリスとか、EUの国がダメになるんだったら、どこか別の国の企業がその需要を満たしていこうと考えるのです。それはアメリカかもしれないし、日本かもしれない。もしかしたら中国かもしれない。どの国がその需要を満たすのかはわからないけど、要するに全部持っているんだからそれでよいと思ったんですね。ということで何もせず、今だにずっとほったらかしです。コアな部分はそんな感じです。大きく配分比率が下がったら、リ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

一マンショックの時のように調整をするだけで、それで十分だと思っています。

島田： ありがとうございます。もうひとつ質問します。ある日、リーマンショック並みの大暴落が起きたとします。その時、自分の子供や若い世代の人達にどんなアドバイスをするか、それを教えてください。金額を変えずに淡々と積み立てることを薦めるのか、増額するように言うのかなど、どんなアドバイスをしますか？

大江： 優等生的な答えは、「金額を変えずに続けなさい」なんでしょうけど、そもそも私は、あまりたくさん投資をしない方がよいという主義なんです。出来るだけキャッシュを多目に持っておくのを心掛けています。なぜかという、資産形成の源泉は働いて稼ぐことであって、その上で、一定割合自分が取れるリスクの中で投資をすればよいと思っています。なので、キャッシュの割合は少し高めにしておいた方がよいと考えています。自分の子供には好きなようにやれとしか言っていないんですが、もしアドバイスするのであれば、暴落した時は思い切って買ったらいいと思います。

私は個人のお客相手はずっと仕事をしてきましたが、本当に個人で株式投資で資産を作られた方は、10年に一度くらいしか株を買っていませんね。一定のグローバル分散投資の積み立てというのはずっと続けていくべきだと思いますし、私は今でも続けています。でも、それ以外の部分を、フルインベストメントの状態にしておく必要はないと思っています。投資する部分は多くても7割で、5割りでも良いと思います。それで、暴落みたいなものがあつたら、その時は思い切って買って、株価が元の水準に戻ってきたら売って、まだ現金を持っていればよいと思います。

島田： 竹川さんはいかがでしょう？

竹川： 自分だったら買い足すと思います。ただ、自分のことを思い返すと、買ってもし良いなと思えるようになったのは、何度か暴落を経験したからだと思うんですね。ライブドアやリーマンの時をいま思い返すと、もっと買っておいてもよかったと思います。ただ、投資を始めただけの人が同じように考えて行動出来るかと言ったら、なかなか難しいと思います。なので、少額でもよいので投資をして、ある程度の変動を経験おいて、「これだったら買い増してもよいか



長期投資仲間通信「インベストライフ」

な」と思えるようになったら、自分の判断で買い増しをするしかないのだろうと思います。

リーマンショックの時は一度大きく下げた後、すぐには戻らずに半年くらいさらに下がり続ける状況でした。そのあともっと下がってしまったので、最初の下げで買った人の中には焦って売ってしまった人もいます。慣れていない状態で頑張って(暴落時に)買っても怖くなってしまふところもあるので、ある程度の資金量であったり、経験則が必要だったりするので、そこは最終的に自分で判断することが必要です。

先日、日経新聞の田村編集委員の記事に、「投資信託自体のリターンと、実際のインベスター・リターン(投資家が得ているリターン)にはかなりの違いがある」という事が書かれていました。どういう投信がインベスター・リターンが高いかという、確定拠出年金専用の投資信託だったり、公募投信でも積み立て比率が高い投信の方が、インベスター・リターンが高い傾向にあるということです。(基準価額が)下がったときでも止めずに投資を続けている人が多いので、結果的にインベスター・リターンが上がるということなんだと思います。だからまずは無理をしないで、下がった時にも止めないということがまずあって、そこから経験に応じて、買える人は買う、くらいでよいのではないのでしょうか。

島田： ありがとうございます。では、岡本さんはどうでしょうか？

岡本： 若い人や自分の子供へのアドバイスですよね。私には娘が一人いますが、私の言う事は絶対に聞かないんですね(笑)。

会場： 爆笑。

岡本： だから言っても仕方ないんですが、若い世代に向けてということであれば、最近、子供向けのセミナーでは、中学生になったら、ジュニア NISA で銘柄を選んで買ってごらんと言っています。自分で好きな会社を選んで、親がお金がある程度出すにしても、自分でもお金を出すことが大切です。高校を卒業したら、退職後の資産形成を始めるのが理想です。大学に行くのであってもバイトをすることにもなるだろうから、その収入の中から 5 千円でも 1 万円でもよいから、グローバルな株式インデックスファンドの積み立て投資を始めましょうということです。これはリーマンショックとかは関係無く、40~50 年位続ける気持ちでやってほしいと思っています。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

今から4年前ほど前の事です、私のセミナーに毎月来ている方が、ある時、高校3年生になる息子連れて来たので、今のような話をしたんですね。大学生になった彼は、最初は苦しかったらうけど、バイト収入から積み立てを始めたんですね。今年の3月に大学を卒業して、春から大学院に進むことになったんだけど、大学院の学費は全て自分が投資したお金で出すことができるそうです。そして更に金額を増やして、30歳までに300万円貯めるつもりだ。という話を聞きました。これは実話なんですね。でも、高校を卒業したら投資を始めると良いことが沢山あるんだと思います。

島田： 最後、馬淵さんお願いします。

馬淵： 自分の息子達に何かアドバイスをしているかと言われると、正直なところ何もしていません。唯一したのが、長男は今、社会人でサラリーマンですけど、「サラリーマンって保険に入るものなの？」と聞かれたので、「やめておけ。その分貯蓄しておけ」というアドバイスをしたことはあります。で、若い人というと、まだ給与水準が低かったりするので、それほど投資に回せるお金が無いと思います。大江さんが話されたように、キャッシュを置いておければ理想ですが、少額の投資を始めてしまうとキャッシュの余裕もないですよ。また、竹川さんがおっしゃっていたように、暴落が起きた後、この日で暴落は終わってことは誰にも分からないものですよね。若い人達はキャッシュがあまり無いのに無理をして買ったのに、そこから暫く下がり続けると耐えられないですよ。そういう資金面で余裕がない世代だと、暴落時に追加投資を考

馬淵治好
竹川美奈子
岡本和久
大江英樹

投資の鉄人

情報、相場、商品、自分——
買はそこにある!

日経プレミアシリーズ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

えることは難しいかなと思います。その代わり時間はありますから、若い人はあまり慌てずにコツコツと積み立てて行けばよいと思います。

島田： そうですね。長く続けていくと何回か暴落を見て、やっぱりあの時は怖くて買えなかったけど、やっていけばよかったなと思うようになってくれたら良いですね。ミッション・フォーの著書、「投資の鉄人」で読んだ内容が、直接、話を聞くとより深く理解できるように思いました。今日はどうもありがとうございました。

ミッション・フォー： 島田さん、司会役をありがとうございました。会場みなさま、今日はお出でいただきありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 退職後の資産準備をどう考えるか

講演：野尻 哲史氏
レポーター：赤堀 薫里

金融ビッグバン時の個人金融資産の配分比率と、現状の配分比率はほとんど変化ありません。実は、アメリカも変化ありません。しかし、2014年の日米の金融資産配分比率を比較すると、日本は現金・預金の比率が50%位と圧倒的に高い。

「貯蓄から投資へ」のゴールは、「銀行から預金を抜いて、投資にしましょう」ではなく、個人の金融資産を増やすことです。アメリカ、イギリスはここ27年で個人の金融資産を5~6倍に増やしていますが、日本はほとんど変化がない。これこそが問題で構成比の問題ではないわけです。

もっと問題なのは、現金・預金の伸び率も日本と比較してアメリカ、イギリスの方が伸びています。

個人金融資産に占める株式と投資信託の比率は、1990年前後の日英米は変わらなかったのに、2013年ではアメリカが一番高くなり、イギリスは日本に比べて個人金融資産に占めるリスク性資産の比率は低くなっているにも関わらず、現金・預金の伸び率はイギリスの方が雲泥の差で高くなりました。

我々は個人金融資産の中の株式・投資信託の比率を上げればいいのではなくて、個人金融資産を増やすことを考えなくてはならない。ここが重要なポイントです。イギリスのマジックは、個人金融資産の中の保険や年金を通して、有価証券を間接的に保有していました。この間接的に保有している有価証券も併せると、アメリカとイギリスは全く同じ水準になります。日本はその半分しか保有していない。基本的に個人金融資産を増やす原動力は、株式や投資信託を持つことですが、どうやって持つかはいろいろ議論が考えられます。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

日本の場合、保険の手数料は高すぎるので、絶対に資産は増えないですね。国の大きな政策を考えた場合、保険や年金をどうやって伸ばしていくのか、そこに税制のインセンティブをつけ、個人がお金を入れたがるような仕組みを作る必要があります。日本は、直接株や投信を購入することは難しいため、イギリスのように、オブラートに包んで最終的に金融資産を増やしていくことができないかと思っています。また、個人の資産の中の土地の評価を変え、上げていくことは、金融資産のインパクトになると考えます。

お金の流れを「額」から「率」へ変えることで、30代から70代80代と長期スパンで流れをつかむことが出来ます。セミナーでは、「老後ゆとりのある生活を送るには月35万円です。」と言いきなり「運用しましょう」と飛んでしまいます。実はそれよりも大事なことは、自分の中で「35万円が自分にとって正しいのかどうか」を考えること。そのための一歩が、年収と率を使うアイデアです。

日本には残念ながら「率」というコンセプトがありません。今までパーツ、パーツであった「積立投資が大事」とか、「使いながら運用する定率引出が大切だ」ということを、体系的に考えているのが「逆算の資産準備」です。「95歳で資産を0円にする」をゴールにして、そこから逆算していきます。この利点は、年齢層を問わずに家族全員で一つのテーブルの中で議論できることです。商品がいいとか投資先がいいとかいうことは脇において、生涯どうやってお金と向き合うべきか大きな視野で考えるべきです。

その後、講演では、退職後に必要な金額を、退職後の生活水準・退職後何年生きるか、退職後の年金を考慮して算出すること。しかし、残高よりも引き出し総額が重要であり、老後、仕事はリタイアしても運用は継続することが大切であること。また、生活必要総額を下げることで残高のハードルは下がりますが、あくまでも生活水準を見直すのではなく、生活“費”水準を見直すことで、生活の質を落とさないことが大切であることの説明をしていただきました。

最後に自分が必要とする引出率を決めて、それに見合った運用収益率を考えるといった、引出率と運用収益率を上手くバランスさせて資産の減り方をコントロールすることについて解説いただきました。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 退職後の資産活用について考える

座談会：、野尻 哲史氏、参加者のみなさま
レポーター： 赤堀 薫里

岡本 | 今回、私が問題意識として持っている分野と非常に近いところにあるお話でしたので、とても興味深く聞かせていただきました。私は高校を卒業した18歳から退職後のための運用をすべきだと考えています。まあ、18歳ではないにしても、仮に30歳から運用すると66歳で36年。30歳の時に投資に回した資金を2%で36年間運用すると「72の法則」で倍になるので、それを66歳の時に使う。31歳の時に運用したお金は67歳に使うといったように1年ずつずらしていくと65歳に貯めたお金は101歳の時に使うということになります。私はわかりやすいように投資金額は、30代3万円、40代4万円、50代5万円、60代6万円としています。そして、若い時の方が株式比率は高いけれど出せる金額は少ない。年齢が上がると出せる金額は増えますが、株式比率は低くなるといったように調整します。もうひとつの重要な点は期待リターンを全て実質ベースで考えることです。株式の期待リターンは実質ベースで世界のGDP並。そのためにグローバルなインデックスファンドを積立で買う。債券、現預金の期待リターンはゼロ。つまり名目で物価上昇率並みということです。そう考えるとリスクフリーアセットと、リスクアセットの二つの配分比率だけを考えればよくなります。最適化の複雑な手間が不要になり、全体の資産の配分比率を考えながら18歳から、または30歳から、淡々と65歳まで続けます。毎年、小さなユニットが償還されたものを生活費として使っていくと考えます。

野尻 | 岡本さんの話を聞いていると、やり方はともかく、積立をする時に、引き出すことを想定した上での話をしていかなければならないですね。もう一つ、資産形成比率(saving rate)について、どう伝えていくか苦悩しています。例えば、アメリカのフィデリティは、資産形成比率を15%と伝えていますが、これは相当高いと多くの人に言われています。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

イギリスは、来年から全ての企業が企業年金を導入することになっています。その代わりに、国が年金プロバイダーを作り、ここが出す DC を採用すればいいわけです。条件として、全員加入と、給料の 8% をここに投資をすること。

8% の内訳は、企業が 3%、個人が 5% ですが、税金分として 1% 返ってくるので、実質個人が 4%、国が 1% となっています。

そうなると資産形成比率はいくらぐらいがいいのかという議論になります。イギリスは最低 8% ですから上乘せしなければならない。私の議論は 12%、アメリカは 10%。これは一律でいいのか、正しいのか。「収入 × 資産形成比率 = 投資額」になるわけです。

今まで投資額の議論をしてきましたが、収入を上げるという議論をおろそかにするのは駄目なのではないでしょうか。資産形成比率が 10% でも、収入が 5 割上がるだけで、投資額はかなり変わります。30 歳からステップアップ投資する立てつけは、言外に年収を上げる努力をする必要があるという話です。投資するのも大事ですけど、投資の前に自己投資をして年収を上げる。低い年収の人はどうしても比率を低くせざるを得ない。年収が上がった分だけ 10% ではなくて 12% にできたら、トータルの達成度が変わってくるのではないのか。資産形成比率は、あるべき姿はこれ位と設定しても、年収が高くなれば簡単に超えることができますが、年収が低いとなかなか到達できません。もう少し内容を詰める必要があると思います。

岡本 | そこはとても面白い議論です。人的資産に対する投資に絡んでくる場所ですね。要するに株式投資に 1 万円を使うのと、自己投資に 1 万円を使うのとではどちらのリターンが大きいのか。自分に投資するよりも、自分よりもっと頭のいい奴が経営している会社に投資した方が効率いいのかもしれないという議論があるのかもしれないですね。すごく面白いなと思いますね。

野尻 | その視点を無くしたくないと思います。今なんとなく、退職後の生活に「働く」という意識がなくなってしまうと思います。「運用すること」、「働くこと」、「移住すること」、この 3 つをどうバランスをとるのか考えてくださいというメッセージを出しています。

岡本 | 海外の人は、割と働くことに対してネガティブに考えていますよね。ハッピー・リタイアメントは、ある程度、経済基盤が出来上がっていて、働かなくても済むからハッピーである。日本の場合はちょっと違うように思います。収入の金額は問わず働き場所がいくつになっても欲しいという気持ちが強いのではないかと思います。

野尻 | 希望はハッピー・リタイアメントですが、現実的にそうではないので、みなさん苦悩されています。イギリスでは、2010 年に退職年齢が差別ということ撤廃されました。退職しなくなったことで、高齢者が居座り、若い人達が入りにくくなってしまふ。早く退職してほしいのに「辞めなさい」とは言えないので、リタイアしやすくするために早めに資産を作る施策を会社とし



長期投資仲間通信「インベストライフ」

てやらざるを得ない。DCを導入するのもそのひとつでしょう。昔は、企業の資産形成のサポートが福利厚生でしたが、段々、人事政策そのものになりつつあります。ハッピー・リタイアメントがなかなかできないので、何かサポートをしていかなければならない。それがDCを普及する流れになっている気がします。

参加者 | 運用を失敗したら、引き出す金額を少なくして我慢するということでしょうか。

野尻 | そうです。運用のリスクを残高に持たせるのか、引出額に持たせるのかということです。どちらにしてもどちらかが負担しなくてはならない話です。ただ、60~75歳の経済対応力と、75歳以降の生活対応力はどちらが強いかというと、60~75歳までだと思います。リスクを下げればそんなにむちゃくちゃにはなりません。でも、15年運用すると残高に相当インパクトが出てきます。そうすると、その後の生活で残高が残っていないと怖いですね。運用する期間が60歳から75歳位だと短くないかという議論があります。場合によっては80歳 85歳 90歳まで運用する。なぜかという、残高が減ってきますから、運用の良し悪しに関わらず、引き出す金額は減ってきます。「果たしてそれは正しいのか？」と言われると、間違っているでしょう。後ろに向けて段々比率を上げていく。予定をしておいて、マーケットの変動に合わせて引き出す金額に幅を持たせるのがいいのではないかという話をしています。

岡本 | やはり、暴落の年が最初に起こると、運用の結果は後々尾を引いてきます。運用結果によって、引出の金額が今年13万円、去年は20万円ではなく、ある程度、平準化するために、キャップやシーリングを付けた方がいいですね。私も様々なシミュレーションを試みてみましたが、完璧な答えはなかなか出ませんね。

野尻 | 運用期間を75歳までということで抑えていると定率でいいんですよ。これを100歳にしたら予定率にしない限り駄目ですね。

岡本 | バリューストック平均法を使って、100歳になった時にトータルのバリューがゼロになるようにバリューストック経路を引き、それに合わせて額で引き出していくというのも一つの方法かなと思っています。

野尻 | 日本は、全部を定率引出とか予定率引出でやるのは少し無理があるのかなと思います。アメリカやイギリスは、このようなアイデアで動いていますが、日本の場合、イギリスの老後資金で使われているアニュイティのように、後半は保険を噛ませるという方がいいのではないかと思います。ただし保険はコストが高い。そこでコストが高い保険の代替商品として投信が作られています。ローコストですが、ターゲットデートファンドが使われるので、それ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

もよろしくないわけですね。ただ、後半にアニュイティを入れましょうというのも、ちょっと苦しいやりようです。

参加者 | せっかく積み上がったものが、ちょっとしたミスでバラバラになってしまったらという恐怖心があります。

野尻 | その恐怖心は無視するしかないです。資産形成の時は、時間をかけてやりましょうということと同じで、資産活用の時も時間をかけて資産活用しましょうということです。もし資産活用している時にマーケットがドカンと落ちてしまったとしても、そこで全額下ろすわけではないので、「もう少し我慢しましょう」というメッセージを自分の中に持てればいいわけです。

参加者 | コツコツ下ろすわけですね。

野尻 | その通りです。積立てる時は定額でいいのですが、引き落とす時は率にしないとインパクトが逆になることを理解してもらえばいいですね。ただ、言うのは簡単ですが、気持ちは簡単ではないですよ。

岡本 | 資産形成は単純ですが、資産活用の具体的方法についてはまだまだいろいろと考える余地がありそうです。とても貴重な問題提起いただきました。ありがとうございました。



極限の貧乏から今日まで

第一話「谷底」編

講演：土井 広文氏

秋田在住の土井広文さん。澤上篤人さんとのご縁で知り合いになった方です。秋田に何度かお邪魔して、セミナーを開催していただきました。お子さんたちとも仲良しになりました。土井さんはすでに仲間を集めて資産運用の勉強会を定期的に行っているそうです。

今年6月に土井さんがお客様を集めてくださり何度目かの秋田での講演が実現しました。遠方も含め、とても多くの方がお出でになりました。特に驚いたのは多くの方が土井さんの話を聞き、この半年ぐらいのうちに実際に投資を始めたということです。これはとてもすごいことです。私も、あちこちで講演をして歩いていますが、時に話を聞いてくださる方のうちどのぐらいの方が実際に投資を始めているのだろうと思うことが多いのです。

きっと土井さんの話には何か人に訴えるものがあるのだろうと思い詳しくお話を聞きました。なるほど、納得です。机上の空論ではない現実のどん底脱出のストーリー、これから三回連載で自ら語っていただきます。(岡本)

「物事に良いも悪いもない。考え方によって良くも悪くもなる。」有名なシェークスピアの言葉です。

私は生きるのを諦めかける程、極限の貧乏を経験しました。でもその事がきっかけとなり、お金とは何かを知り、お金の不安から解放されることになりました。そして、お金は豊かに生きるための一部分でしかなく、お金より大事なものの方がずっと多いことも知りました。あの大変な経験は私の財産であり、極限の貧乏を経験したが故に今があります。

今回から三回連載で、私の極限の貧乏脱出から今日までをお話させていただきます。第一話は、極限の貧乏時代「谷底」編、第二話は谷底からの脱出「再起」編、そして最後は極限の貧乏から脱出を果たした今日の「自立」編です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

私は1975年生まれの42歳です。家族構成は妻、長男、次男、長女の5人家族です。極限の貧乏を経験したのは今から7年前の2010年の事になります。それまでは上場企業で働き、それなりに収入もありました。仕事は大変でしたが、当時はまだ二人だった子供を育てながら、自宅を新築し、今思えばなに不自由なく生活出来ていました。年収で言えば、貧乏を脱出した今よりもありません。

でも豊かさを感じた事はなく常に気持ちは欠乏していました。もっとお金があれば、もっと豊かになりたい。「勝ち組」、「負け組」という言葉が流行っていた頃です。自分は「負け組だ」といつも思っていました。岡本先生のおっしゃる「足る」を知らなかったのです。



「足る」を知らなかった私は、「自分の可能性に挑戦したい」と妻に転職の相談を持ちかけ、自分なりに一番大変な仕事のイメージを持っていた、住宅営業の仕事に転職しました。要は「もっと」お金が欲しかったのですが…。

自宅を新築すると、さして理由もなく転職をさせる会社の理不尽さが気に入らなかったのもあります。他人の単なる思い付きで自分の人生を振り回されたくないと感じていました。この転職が「終わりの始まり」でした…。ジワジワと神さまのご指導、ご鞭撻が始まりました。

住宅営業の仕事はとても忙しく、休みは全くと言っていい程ありませんでしたが、それなりにお客様が付き始め順調に行くかに思われました。でもこの休みの取れなさが、我が家には致命的な負担でした。

我が家の次男は自閉症の障害を持っています。自閉症の症状は人それぞれですが、家庭に自閉症の子供がいるとなかなか普通の家庭生活を送ることが困難なものです。次男は重度の自閉症のため、何をしてもかすか解らないため、家の中に居ても常に緊張と隣り合わせの生活です。転職前の私は育児や家事を出来る範囲で手伝っており、時々妻の負担や緊張をほぐしてあげることが出来ていたのですが、まったく休みが取れない状況が続いたことで妻に負担が集中し、精神的に完全に参ってしまったのです。

そんな状態に陥った妻が、突然子どもを連れて新幹線で実家に帰ってしまったことがありました。家族のために頑張っているつもりでしたが、お金よりも大切な家庭を見ずにお金を追いかけていたのだと思います。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

家庭を崩壊させる訳には行かず、やむなく退職し再び就職活動をすることになりました。一時的に無職になったため、当時専業主婦だった妻が「これはマズい！！」とすぐに察知し、働きに出ることになりました。妻にとっては更に負担が増えることになったのですが、妻は働き口や子供を預ける保育園の確保に駆けずり回り、短期間に一人で完結させ家計を支えてくれました。そのお陰でなんとか生活を継続することが出来ました。あの時は本当に妻に助けられたと思います。本当に苦労をかけてしまったと今でも思います。

その後、私も何とか働き口を見つけることが出来たのですが、短期間に転職を繰り返した事で年収は150万円にまで減ってしまいました。わずかな蓄えもあっという間に食い潰し、貯金が一円も無い状態に陥りました。

当時、自宅も新築してまだ間もない頃で、住宅ローンの残高はまだ3,000万円以上ありました。毎月の生活は本当にギリギリで、どんなに生活を切り詰めても給料日に払うものを払い終わると手元には3万円しか残りませんでした。その3万円で家族4人が一ヶ月生活をするのですから、毎日一円、十円を削る思いで生活をしていました。着るもの、食べるものはままならず、ほんのわずかで何か急な出費があった時は食べる物さえ買えない状況が長く続きました。

いつ住宅ローンの支払いが滞るか、いつも自宅を取り上げられる恐怖でいっぱいでした。「こんなことがいつまで続くのだろうか…？」と日々、生きていること自体がとても苦痛だったのを覚えています。毎日、情けない思いとお金が無いことへの恐怖に苛まれながら過ごしていました。生きているのが本当に辛くてなりません。でも悲劇はそれで終わりませんでした。

突然、朝早い時間に実家の弟から電話が来ました。嫌な予感がしましたが、その予感の的中。内容は「父が亡くなった」というものでした。死因は自殺でした。遺書が無かったので自殺の理由は今でも解りません。

貯金が一円も無く、財布にはお金が入っていない状態で、連日お金の話が降りかかって来ました。和尚さんが見えられて「戒名は45万円です。葬儀は和尚一人30万円です。葬儀は一人ではできませんので二人で執り行います」といきなり100万円のお話から始まりました。

もちろんそれだけではありません。さらに何十万円単位の話が連日、続きました。弔問に来られる方へお出しするお茶を買うお金もない状況で連日お金の話です。支払いのめどが全くない、とてつもないお金の話が私の意志とは全く関係ないところで、どんどん進んでいきました。努力で切り抜ける状況ではなく、完全にアウト！！でした「チェックメイト！！」ってやつです。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

お金に振り回されざるを得なかったお陰で、父の死への悲しみから意識をそらすことが出来たのはせめてもの救いだったかもしれません。父の遺産は実家の家屋敷以外にはほとんどなく葬儀にかかる費用は、全て弟と親戚が出しました。長男として情けない思いに、今まで感じたことのない悔しさと情けなさが込み上げる毎日でした。

「人間、お金がなければ死ぬことも出来ない」、「何故、お金はこれほどまでに人を苦しめるのか?」、「お金なんて存在しなければ…」と自宅のトイレにこもり頭を抱えていた日のことを今でもハッキリと覚えています。



でも、悔しさだけではなく、熱い思いも込み上げて来るのを感じました。「誰も助けてはくれない。自分で何とかせねば!!」と…。静かな気持ちの変化でしたが、強い思いでした。自分の中で何かが変わった瞬間だったと思います。ターニングポイントって言うやつです。行き着く所までとことんたどり着いた結果、何かが変わった瞬間だったのだと思います。

何かが変わった私は「そもそもお金とはいったい何なんだ! ?」、「お金持ちとは何なんだ! ?」と静かな疑問が沸き起こったのです。この人生最大、最悪とも思える出来事が後の人生における「最大の財産」になっていくことを、当時の私は知る由もありませんでした。

(第二話「再起」へつづく)



中国がわかるシリーズ 41

モンゴル軍の第二次大西征 その2

ライフネット生命保険株式会社

創業者 出口 治明氏

1252年、クビライが雲南に出立、1253年には、フレグが西方に出立しました。クビライは、同年、[南]宋攻略の第1歩として、東ユーラシアの臍に位置する雲南の大理国を滅ぼしました。この年、フランシスコ修道会のウィリアム・オブ・ルブルクがモンケに謁見しています(カラコルムには、仏教寺院12、回教寺院2、キリスト教会1があったと、ルブルクは伝えています。イスラーム教徒は勿論、フランス人やロシア人もカラコルムに住み着いていました。ルブルクの「旅行記」は、第1級の史料です)。

フレグは、イランに入り、アラムートなどの山城群を攻略し、ニザール派(シーア派の分派)を屈服させました。生き延びたニザール派イマームの後裔はインドに移り住み大財閥を築きました。現在のイマーム、アーガー・カーン4世は、NGOのリーダーとしても著名です。

ルーム・セルジューク朝を屈服させ、バクダードに入ったフレグは、1258年、カリフを殺してアッバース朝を滅ぼしました。イラン、イラクの地のシーア派とスンナ派の中核はこうして姿を消したのです。1259年、フレグは、マラーガ(アゼルバイジャン)に天文台を開き、アラビア最大の数学者、ナスィールウッディーンを台長に任命しました。この天文台には、東西の優れた学者が集められ、付属図書館には、バクダードから持ち込まれたカリフの蔵書も含まれていたのです(ナスィールウッディーンは、1271年、「イル・ハーン天文表」を完成します。マラーガの天文台は、大元ウルスの大都の司天台の模範となり、また後世のティムール朝、ウルグ・ベク天文台などにも大きな影響を与えました)。

1260年、シリアを席捲したフレグは、モンケの訃報(1259年、南宋攻撃の陣中で没)を聞いて、ほぼ無傷の大軍を引き上げました。この2度目の大旋回により、エジプトと地中海世界が救われたのです。しかし、フレグもまた、モンゴルには帰らず、イランの地に、タブリーズを首都とするフレ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

グ・ウルス(イル・ハーン国)を建国しました(西方世界を統括していたジョチ・ウルスにとっては、これは、予想外の出来事でした。

豊かなアゼルバイジャンの草原を巡ってジョチ・ウルスとフレグ・ウルスの長い確執が始まります)。フレグがイラーンの地に留まったことで、西アジアの宗教色は薄められ、俗権が聖権を従える構造が定着しました。フレグ・ウルスでは、中国画の影響を受けた極彩色のミニアチュール(細密画)が発達しましたが、偶像崇拜を否定するイスラームの聖権の下では考えられなかったことでしょう。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸氏

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員(調査本部長)を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



日本橋(銘板を揮毫したのは徳川慶喜)

3 年前にオープンしたコレド室町 2、3 で賑わう「日本橋」界限。かつてのオフィス街はブランドショップ、レストラン、シネマなど娯楽の街に変貌しつつある。

ところで、以前の五街道の起点になったのが、日本橋川に架かる「日本橋」だ。橋は江戸時代には木造だったが、現在の日本橋が完成したのは明治 44 年(1911 年)、その銘板の揮毫は最後の将軍、徳川慶喜によるものだ(大正 2 年、76 歳で死去)。徳川のお膝元であった日本橋に江戸時代の面影を残すべく、当時の東京市長・尾崎行雄が依頼したものである。

なお、コレド(COREDITO)とは「CORE」と「EDO」をつないだ造語。



圧巻(の由来)

中国には隋から清の時代まで官吏登用のための「科挙」という試験制度があった。地方試験を突破した万単位の者(挙人といった)が 3 年に一度の試験を受け 200~300 人の「進士」が誕生して晴れて官吏となるのだが、試験はここで終わったわけではない。「殿試」という最終試験があり、順位が決めるのである。殿試のトップ及第者は「状元」と呼ばれた。大変な名誉であり、状元



長期投資仲間通信「インベストライフ」

の答案は他の 300 近い答案の一番上に載せられ皇帝に提出された。一人の答案は一巻とされた。

まさに状元の答案(巻)は他の答案を圧する形である。ここから同種の詩文の中で(転じて全体の中で)最も優れたものを「圧巻」というようになったのである。

追記1. 状元が必ずしも一番出世になったわけではない。日本でも名が知られる林則徐、曾國藩、李鴻章などは状元ではない。袁世凱などは進士にすら合格していない。受験秀才が必ずしも役に立ったわけではないようだ。

追記2. 日本は「科擧」制度を採り入れなかった。このほか、中国の「宦官」「纏足」も日本は無視した。聖徳太子以降の日本の政治家は中国の制度や慣習の良し悪しを見分ける能力を持ち合わせていたといえるのではなかろうか。

甲子園の土と福嶋投手

福岡県立小倉高校(昭和 22 年までは旧制小倉中学)は、昭和 22 年、23 年の夏の甲子園で連続優勝したが、その立役者がエースの福嶋一雄投手で、とくに 23 年の大会では全 5 試合連続完封で 2 連覇を果たした。そして昭和 24 年も甲子園に出場、3 連覇に期待が高まったが、準々決勝で倉敷工業に延長 10 回惜敗した。

この敗戦で退場する時、福嶋投手はスコアボードを仰ぎ見ながら、無意識に土を掴んでズボンの後ろポケットに入れて、甲子園を後にした。この退場シーンに感動した大会審判長が「この甲子園で学んだものは、学校教育で学べないものだ。君のポケットに入ったその土には、それがすべて詰まっている。それを糧に、これからの人生を生きてほしい」という手紙を福嶋に出した。

このエピソードから福嶋は「甲子園の土を最初に持ち帰った球児」と言われるようになったのである。福嶋投手は早大を経て、地元の八幡製鉄に就職、都市対抗野球でも活躍、平成 25 年に野球殿堂入りしている。現在 86 歳で健在です。



世界三大美人

世界三大美人と言えば「クレオパトラ、楊貴妃、小野小町」を上げる人が多い。しかし、世界的にみれば(小野小町はほとんど知られておらず)「クレオパトラ、楊貴妃、ヘレネ(ヘレネーとも表記される)」が三大美人だ。

クレオパトラと楊貴妃は実在の人物、ヘレネはギリシャ神話上の女性。表向きはスパルタ王の娘なのだが、実父はゼウスで絶世の美女。有名なトロイア戦争は、このヘレネがトロイアの王子パリスにさらわれたことがきっかけで起きる。世界三大美人に共通しているのは時の権力者を魅了して、歴史に大きな影響を及ぼした点にあるようだ。



目から鱗(が落ちる)(聖書に由来する言葉)

「目から鱗」は『新約聖書』使徒行伝・第九章にある「The scales fall from one's eyes.」という言葉に由来する。

キリスト教を迫害していたサウロの目が見えなくなったとき、イエス・キリストがキリスト教徒に語りかけ、サウロを助けるようにキリスト教徒のアナニヤに指示する。アナニヤがサウロの顔の上に手を置くと、サウロは目が見えるようになり、このときサウロは「目から鱗のようなものが落ちた」と言ったのである。

ここから、あることをきっかけに、今までわからなかったことが急に理解できるようになることを「目から鱗(が落ちる)」というようになったのである。

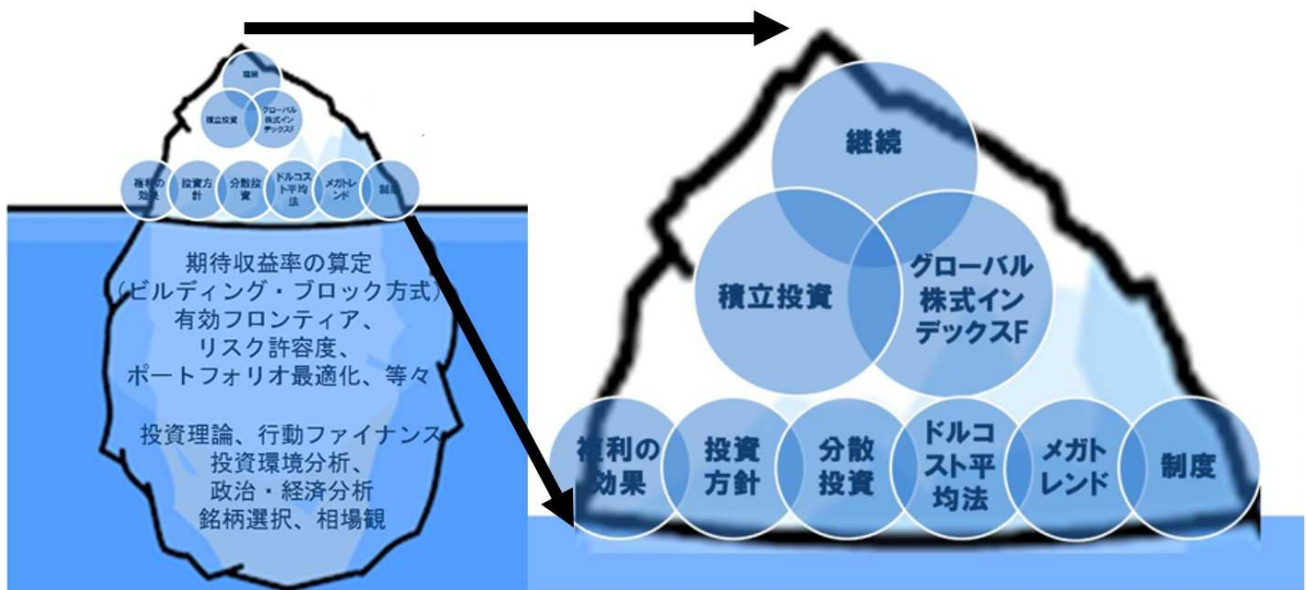


I-OWA マンスリー・セミナー講演より 投資教育家の見た投資教育のあり方

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

どうしてスマホがこんなに普及したのか？それは、みんながスマホの構造を理解したからではなくて、使い方がやさしくなったからです。これは投資にも共通して言えることで、投資を普及するためには、いかに使い方をやさしくするかが鍵だということです。

第一歩を踏み出すために、小さい頃から本当に大切なことを教え込むことが重要です。投資と資産運用は人生を通じてずっと学び続けるものです。つまり、投資はある一定期間学ぶものではなく、最後にお金を使い切って死ぬまでの間、継続して学び続けるものなのです。理論的に正しい事を究極までシンプルにした投資法を伝えることが大切です。



投資の理論は、様々な学者が打ち立てています。それらの理論に基づいて実際に機関投資家が運用にする時は、一定のプロセスがあります。しかし、これを個人がやってもあまり意味はない。大事なことは、6つあります。複雑すぎるのです。本当に大切なことは、「株式会社の仕組み、株式、債券の本質」、「複利の効果」、「投資方針(資産配分)」、「分散投資」、「ドルコスト平均法」、「メガ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

トレンド」、「制度」です。これの知識を備えた上に、グローバルな株式インデックスファンドの積立を続けていけばいいのです。

私の考えている投資教育のカリキュラムは、0歳からスタートすべきだと思っています。経済の基本は希少性。つまり我慢すること、知足が基本です。0歳の選択として、赤ちゃんが「ミルクが欲しい」、「おむつを替えて欲しい」と言っても、両方一度にはできません。どちらを先にやるのかトレードオフの関係。片方を選択すれば、あきらめた方は少し我慢をしなければならない。ここに機会コストの問題が発生してきます。小学校の低学年までは、「お金って何?」、「お金の歴史」、「お金で世界がつながる」、「働く・仕事ということ」などを学びます。ハッピーマネー4分法の「つかう・ためる・ゆずる」まではわかると思いますが、「ふやす」は少し難しいので、小学生の低学年までは、銭以外の知識を増やす、友達を増やす、笑顔を増やすといったことになるでしょう。上級生になってきたら、ふやすという部分に「投資」を少しずつ入れていけばいいと思います。

中学生以上になったら、経済・金融の初歩を体系的に勉強すると同時に、起業家について学び、世の中とのつながりを勉強します。同時に、中学、高校生にはジュニアNISAを使って投資をやらせるのも良いと思います。

ジュニアNISAを使う点で注意点が4つあります。

それらは

- ① 子ども自身が銘柄を選択する
- ② 投資先企業の世の中の役割をよく理解させること。
- ③ 少額でもいいので子どもにもお金を出させる。
- ④ 株価に注意が行き過ぎないようにする。

です。

高校になったら、基礎的なことを学び、高校を卒業したら、先ほどの基礎知識を備えた上で積立投資を始める。つまり18歳ぐらいになったら退職後に向けて自分の資産形成を始めていく。高校から始めると資産形成もずいぶん楽です。収入が入ってきたら、友だちとの飲み会等を月に一度、我慢して積立投資する。この我慢することがトレードオフの関係です。今の我慢と将来のメリット。今か未来だったら未来の方が大事だということをちゃんと教えてあげなくてはならない。それが本当は投資だということです。

ミドルになり、興味があったらオプションで個別投資をやるのもいいでしょう。更にシニアになったら50歳位から退職後のプランニングが必要です。退職した後は脳トレ投資、寄付のような超マネー投資ということも考えられるでしょう。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

この後講演では、投資がなかなか普及しない問題点を解説。また、5月に訪米した先の一つであり、投資教育と投資保護活動を行っている、Investor Protection Trust の紹介と、投資で成功するための5つの秘訣について、そして、同社の教材 DVD の動画(前半)を紹介くださいました。来月 DVD の後半を紹介して下さるとのこと楽しみです。

<モデルポートフォリオ:2017年7月末の運用状況>

単位：%

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1か月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 211万円
4資産型	積極型	0.49	20.63	17.24	3.34	17.14	10.12	32.39	69.23	85.26
	成長型	0.35	13.39	12.90	3.28	12.20	6.93	22.45	49.26	67.16
	安定型	0.20	6.53	8.57	2.97	7.71	3.86	13.12	30.97	48.63
2資産型	積極型	0.93	22.16	17.00	3.91	19.17	11.22	31.56	72.42	98.86
	成長型	0.64	15.35	13.30	3.63	14.28	8.18	22.42	52.47	78.04
	安定型	0.36	8.87	9.61	3.10	9.97	5.25	13.78	34.22	56.87

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2016年7月末に1万円投資資金を積み立て始め、2017年6月末の投資資金までとする(2017年7月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: Citi WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: Citi WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

4資産

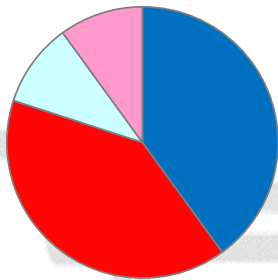
■ 国内株式:
TOPIX

■ 外国株式:
MSCI KOKUSAI

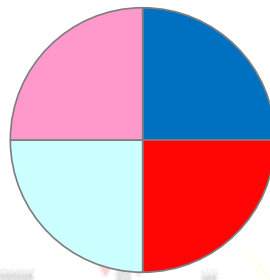
■ 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)

■ 外国債券:
Citi WGBI
(除く日本)

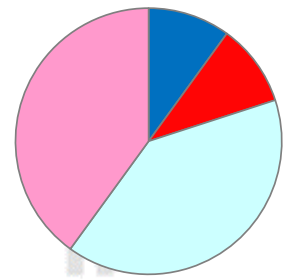
積極型



成長型



安定型

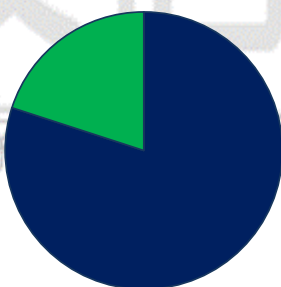


2資産型

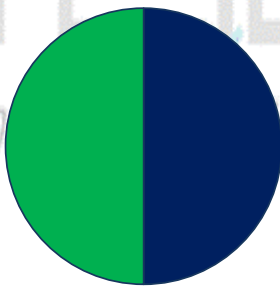
■ 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)

■ 世界債券:
Citi WGBI
(含む日本)

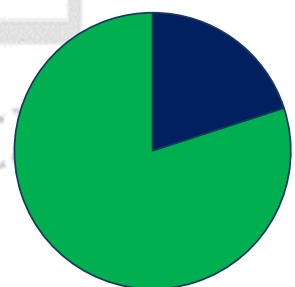
積極型



成長型



安定型



<国内で購入可能な代表的ETF:2017年7月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。※ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」通信「インベストライフ」のその他の記事はこちらをご覧ください。http://www.investlife.jp/

* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。
 なお、国内株式、債券、コモディティについては「インベストライフ」が選定しました。

Ticker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)		1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2017年7月末		繰上り または 償還期間 (%)	イボットソン 分 類	連動を目指す 投資対象指数
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	百万ドル	億円			
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	2.11	15.84	11.36	8.05	2.17	0.41	24.90	19.36	11.87	1.41	20.10	15.93	11.72	37.81	62.28	68.75	13.41	82.68	136.32	202.50	21,885	24,182	0.10	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ国際)	2.11	15.83	11.35	8.04	-	0.41	24.88	19.35	11.86	-	-	-	11.71	37.77	62.23	-	13.41	82.66	136.27	-	6,549	7,236	0.08	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI)除く日本(日興AM)	2.61	14.54	10.07	-	-	0.90	23.49	17.98	-	-	-	12.01	33.49	-	-	13.44	80.09	-	-	35	38	0.32	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)	
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	2.65	17.37	11.42	9.99	-	0.95	26.55	19.43	13.88	-	-	12.97	37.30	66.57	-	13.56	82.38	139.92	-	8,748	9,666	0.11	外国株式・世界型	FTSE グローバル・オールキャップ指数	
IOO	iShares® グローバル 100 ETF	2.17	18.38	10.69	9.32	3.89	0.47	27.64	18.64	13.18	3.12	21.92	17.20	13.02	35.38	63.09	76.54	13.56	81.23	136.99	211.85	1,647	1,820	0.40	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数
TOK	iShares® MSCI コクサイ ETF	2.45	16.62	11.99	11.11	-	0.75	25.74	20.04	15.04	-	-	12.56	38.34	71.14	-	13.51	83.00	143.76	-	330	365	0.25	外国株式・世界型	MSCI KOKUSAI(コクサイ)指数	
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	2.87	17.68	8.97	6.85	1.39	1.16	26.88	16.80	10.63	0.63	23.14	19.26	14.39	26.85	48.56	56.88	13.73	76.11	124.79	188.25	78,691	86,950	0.33	外国株式・ 大型ブレンド型	MSCI EAFE 指数
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国)スモールキャップETF	3.60	17.54	9.88	7.45	-	1.88	26.73	17.77	11.25	-	-	15.07	31.93	52.37	-	13.81	79.16	127.99	-	3,940	4,354	0.13	外国株式・ 中・小型ブレンド型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国)指数	
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	1.87	16.10	14.74	14.54	7.95	0.18	25.18	22.98	18.59	7.14	22.63	17.09	11.24	48.33	92.44	125.86	13.35	89.00	161.65	271.03	81,727	90,305	0.04	米国株式・ 大型ブレンド型	CRSP USトータル・マーケット指数
VB	Vanguard・スモールキャップETF	1.11	14.64	14.57	14.07	8.60	-0.56	23.60	22.80	18.10	7.79	27.15	21.82	9.30	43.13	85.04	125.56	13.12	85.88	155.43	270.67	19,113	21,119	0.06	米国株式・ 小型ブレンド型	CRSP USスモールキャップ指数
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	5.87	24.08	4.15	2.86	1.71	4.12	33.78	11.63	6.49	0.95	27.15	24.32	18.40	25.10	34.47	42.04	14.21	75.06	112.96	170.44	34,930	38,596	0.72	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数
VWO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	5.35	19.69	4.32	3.05	1.68	3.60	29.04	11.82	6.69	0.93	27.80	25.03	15.16	23.60	33.67	43.11	13.82	74.16	112.28	171.73	59,314	65,539	0.14	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数
FM	iShares® MSCI フロンティア 100 ETF	1.69	20.99	-	-	-	0.00	30.45	-	-	-	-	-	14.20	-	-	-	13.70	-	-	604	668	0.79	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI フロンティア・マーケット 100 指数	
IGOV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	3.00	-1.52	0.85	1.20	-	1.29	6.18	8.10	4.77	-	-	-	5.44	8.44	18.22	-	12.65	65.06	99.30	-	673	744	0.35	外国債券・世界型	S&Pシテグループ・ インターナショナル・ トレジャリー・ボンド指数(除く米国)
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	0.43	-0.54	1.96	2.99	4.33	-1.24	7.23	9.29	6.63	3.55	9.90	3.46	2.21	12.55	26.72	34.88	12.27	67.53	106.45	161.86	48,533	53,626	0.05	米国債券・ 中長期型	パークレイズ米国総合指数
TIP	iShares®・米国物価連動国債 ETF	0.44	-1.11	-0.14	2.78	3.96	-1.23	6.62	7.04	6.41	3.18	10.55	6.46	0.99	7.78	20.49	28.98	12.12	64.67	101.21	154.77	23,164	25,595	0.20	米国債券・ インフレヘッジ型	パークレイズ米国TIPS指数(シリーズL)
RWX	SPDR ダウ ジョーンズ インターナショナル リアル エステート ETF	3.16	-0.55	5.77	7.55	0.70	1.44	7.22	13.37	11.35	-0.05	23.30	20.85	6.36	16.39	40.07	55.92	12.76	69.83	117.66	187.11	3,769	4,164	0.59	海外不動産 (除く米国)セクター型	ダウ・ジョーンズ・ グローバル(除く米国)セレクト・ リアル・エステート・セキュリティーズ指数
IYR	iShares®・米国不動産 ETF	1.19	-1.55	8.48	10.82	5.73	-0.49	6.15	16.28	14.73	4.94	28.80	26.55	5.42	33.16	64.66	98.43	12.65	79.90	138.31	238.12	4,205	4,646	0.44	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	4.44	4.14	-14.82	-9.57	-10.58	2.71	12.28	-8.70	-6.38	-11.24	24.57	22.01	0.57	-28.99	-32.02	-38.65	12.07	42.61	57.10	73.63	1,186	1,310	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	2.00	-5.93	-5.19	0.76	6.23	0.31	1.43	1.62	4.32	5.44	19.49	20.95	1.89	1.80	4.82	17.66	12.23	61.08	88.05	141.20	32,260	35,646	0.40	コモディティ・貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決め値)

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合には2016年7月末に1万円で積み立てを開始し、2017年6月末投資分までの2017年7月末における運用成果とする(2017年7月の積み立て額は入れない)。
 出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<http://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご返信ください。